

アキアカネ

2011年10月28日。昨年この日の前日27日にはかなりの量の湿った雪が降り、未だ落葉しきれない樹の枝が雪の重さで折れたり曲がったりして森が荒れました。1年が過ぎたこの2011年10月28日は、前日までの雨もあがり、小春日和となりました。参加者16名。仕事を分担しての活動でした。「CGC



鳥柵舞の森」の看板の字の彫刻作業を田山氏と一緒にしていました。日向に置いた板の暖気に誘われてか、よれよれのトンボが止まりにきました。心やさしい田山氏が、「ほれ、ほれ。(邪魔だ、あっちへ行け)」という感じで声をかけて手で追い払いました。私もトンボには気づいていました。アキアカネでした。数匹がふらふらと飛んでいました。冬の到来を間近に控えての最後の飛翔と感じていました。サケのホッチャレのような按配なのです。素手でも捕まえられます。

このアキアカネとその近い仲間たちトンボ科アカネ属のトンボたちは図鑑「札幌の昆虫」によりますと15種類記載されていますが、素人には識別困難です。大きさは中型でも小ぶりな方。初秋には群舞してくれます。最終段階になりますと殆どが二連結状態で群舞してくれますので壮観です。最大の数を誇る科群といってよいでしょう。それらのトンボの中での代表格がこのアキアカネなのであります。

夕焼け小焼けの赤とんぼ・・・、で始まる「赤とんぼ」に詠まれたトンボはこのアキアカネに違いないと、かねてから思っています。「アカトンボ」という和名のトンボはいないのです。赤さで較べるとショウジョウトンボが一番だと思います。こいつは本当にこれ以上無いと言えるほど赤いのですが数が少なくて水辺でしかお目にかかれません。姉やに負われて見られる代物ではないのです。

澄川の森は沢や池があるのでトンボたちが多いのです。我々を悩ませるカ(蚊)やハエ(蠅)たちを捕食してくれるので、大いに助けられているのです。

初雪が明日にも降る季節となつては、虫たちとの触れ合いもままならないことになりました。雪の期間は冬眠中にお邪魔する機会に恵まれることを期待しましょう。

この日植菌栽培したナメコが先日に引き続き収穫されました。エノキダケ、ムキタケ、ヒラタケなどと合せて16等分してもかなりの量でした。

